

プリンス・エドワード島の州都
シャーロットタウン

州都の中心部にあるグレート・
ジョージ・ホテル。1864年の
建国会議に出席した建国の祖父
たちが宿泊



プリンス・エドワード島州

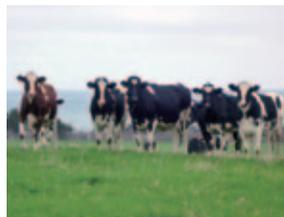


『赤毛のアン』のアルバム

グリーン・ゲイブルズの看板



グリーン・ゲイブルズ前を流れる小川



プリンス・エドワード島北岸、海
の見える牧場と牛たち



プリンス・エドワード島の牧草地



はじめに

私は、アン・シリーズの日本初の全文訳を手がけるかたわら、2002年から毎年、春と秋に、都内で『赤毛のアン』の原書を読む講座をひらいています。また2008年には、NHK教育テレビ（現Eテレ）で『赤毛のアン』を読む英語番組で講師をつとめ、番組テキストも執筆しました。

以来、全国の方々から、「講座の教材を1冊の本にしてください」、「『赤毛のアン』を英語で読むための単語の意味や対訳のついた本をお願いします」、というご要望を、たくさんいただきました。

そこでこのたび、本書『英語で楽しむ赤毛のアン』をみなさまにお届けする次第です。

モンゴメリが書いたオリジナルの原文を読んで、著者がいかに美しい英文を書いているか、いかにドラマチックな場面やユーモラスな会話を創り上げているか、感嘆されることでしょう。

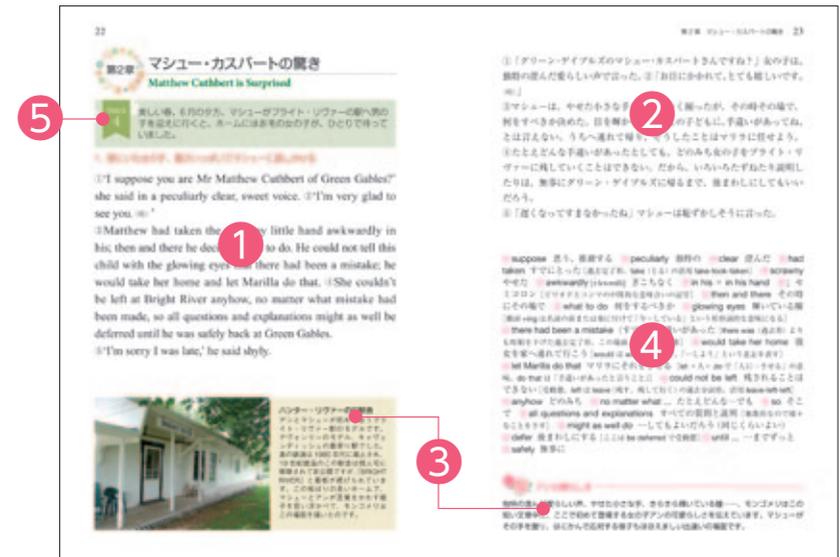
さらに、アンはこんな英語を話していたのか、マシューとマリラはこんな語彙で会話をしていたのか、感動も新たに、『赤毛のアン』の面白さを味わっていただけたと思います。

ただし、原書は上級者むけで、英検準1級と同じレベルです。そこで本書では、原作から、面白くて有名な場面でありながら、比較的やさしい場面を抜き出しました。

全38章の各章から、2つずつ場面を選び、対訳、単語と文法の説明、小説の理解を深めるコラム、プリンス・エドワード島の写真をつけました。第38章からは3つの場面を取りあげましたので、合計77の場面です。

『赤毛のアン』の物語を楽しみながら、語学力を身につけていただけたら、著者として最上の喜びです。

本書の構成と使い方



①モンゴメリが書いたオリジナル英文

底本として、入手しやすいPenguin Books社のPuffin Books版を使用しています。英文の表記もこれにそろえています。

②対訳

英語学習の参考になるように、翻訳ではなく対訳として新たに訳しました。英文と対応した番号がついています。翻訳は集英社文庫版『赤毛のアン』をご覧ください。

③写真・ミニコラム

アンの世界を知るための写真・ミニコラムです。このほか、各パートの間には物語の時代背景や英米文学からの引用などを紹介した、より深いテーマのコラムも収録しています。

④単語帳

物語に登場する単語・フレーズの意味をまとめました。辞書なしで英文を読むことができるよう、比較的やさしい表現も取りあげてあります。文法のおさらいには、巻末の説明ページをご覧ください。

⑤トラック番号

付録CDに音声が入録されています。カナダ人ナレーターが朗読しています。耳からもアンのお話を楽しみ、発音とリスニングを学習しましょう。

第2章 マシュー・カスバートの驚き

Matthew Cuthbert is Surprised

TRACK 4

美しい春、6月の夕方、マシューがブライト・リヴァーの駅へ男の子を迎えに行くと、ホームには赤毛の女の子が、ひとりりで待っていました。

1. 駅にいた女の子、喜びいっぱいマシューに話しかける

①‘I suppose you are Mr Matthew Cuthbert of Green Gables?’ she said in a peculiarly clear, sweet voice. ②‘I’m very glad to see you. (略)’

③Matthew had taken the scrawny little hand awkwardly in his; then and there he decided what to do. He could not tell this child with the glowing eyes that there had been a mistake; he would take her home and let Marilla do that. ④She couldn’t be left at Bright River anyhow, no matter what mistake had been made, so all questions and explanations might as well be deferred until he was safely back at Green Gables.

⑤‘I’m sorry I was late,’ he said shyly.



ハンター・リヴァーの旧駅舎

アンとマシューが初めて会うブライト・リヴァー駅のモデルです。アヴォンリーのモデル、キャヴェンディッシュの最寄り駅でした。島の鉄道は1980年代に廃止され、19世紀建造のこの駅舎は個人宅に移築されて非公開ですが、「BRIGHT RIVER」と看板が掲げられています。この板ばりの長いホームで、マシューとアンが言葉をかわす様子を思い浮かべて、モンゴメリはこの場面を描いたのです。

①「グリーン・ゲイブルズのマシュー・カスバートさんですね？」女の子は、独特の澄んだ愛らしい声で言った。②「お目にかかれて、とても嬉しいです。(略)」

③マシューは、やせた小さな手をぎこちなく握ったが、その時その場で、何をすべきか決めた。目を輝かせているこの子どもに、手違いがあつてね、とは言えない。うちへ連れて帰り、そうしたことはマリラに任せよう。

④たとえどんな手違いがあつたとしても、どのみち女の子をブライト・リヴァーに残していくことはできない。だから、いろいろたずねたり説明したりは、無事にグリーン・ゲイブルズに帰るまで、後まわしにしてもいいだろう。

⑤「遅くなってすまなかったね」マシューは恥ずかしそうに言った。

- suppose 思う、推測する
- peculiarly 独特の
- clear 澄んだ
- had taken すでにとった [過去完了形。take (とる) の活用 take-took-taken]
- scrawny やせた
- awkwardly [ɑ:kwɔ:dli] ぎこちなく
- in his = in his hand
- ; セミコロン [ピリオドとコンマの中間的な意味合いの記号]
- then and there その時にその場で
- what to do 何をすべきか
- glowing eyes 輝いている瞳 [動詞+ing は名詞の前または後に付けて「今~している」という形容詞的な意味になる]
- there had been a mistake (すでに) 間違いがあつた [there was (過去形) よりも時制を下げた過去完了形。この場面より前の出来事]
- would take her home 彼女を家へ連れて行こう [would は will の過去形で、「…しよう」という意志を表す]
- let Marilla do that マリラにそれをさせる [let + 人 + do で「人に…させる」の意味。do that は「手違いがあつたと言うこと」]
- could not be left 残されることはできない [受動態。left は leave (残す、残して行く) の過去分詞形。活用 leave-left-left]
- anyhow どのみち
- no matter what ... たとえどんな…でも
- so そこで
- all questions and explanations すべての質問と説明 [複数形なので様々なことをさす]
- might as well do …してもよいだろう (同じくらいよい)
- defer 後まわしにする [ここは be deferred で受動態]
- until ... …までずっと
- safely 無事に

アンの愛らしさ

独特の澄んだ愛らしい声、やせた小さな手、きらきら輝いている瞳……、モンゴメリはこの短い文章中に、ここで初めて登場する女の子アンの可愛らしさを伝えています。マシューがその手を握り、はにかんで応対する様子もほほえましい出逢いの場面です。